

## II. 平成11年度の事業の概要

県名	種苗生産			中間育成			放流				担当機関
	生産回次	ふ化仔魚数 千尾	ふ化率 (%)	開始時 千尾 (mm)	終了時 千尾 (mm)	実施期間	放流実施場所	放流尾数 千尾 (標識尾数)	放流日 月/日	当初計画 千尾 (標識尾数)	
沖縄県				H10 生産員 68 (10)	40 (21)	H11 4月 ～ H12 3月	石垣島 東沖  竹富島 南沖	28 (28)	H11 4/15  5/19  7/6  8/30  10/15  H/12  3/21	30 (30)	沖縄県 水八 産重 駿山 場支 場
	6	14,260	70 ～ 95	H11 生産員 36 (9)							

## III. 平成11年度調査結果の要約

### 1. 種苗生産技術開発

平成11年度のヤコウガイ種苗生産は、12年3月末時点で平均殻高9mm、3万6千個体であった。

### 2. 中間育成技術開発

#### (1) 中間育成

平成10年度生産員の中間育成数は4万個体、生残率は58.8%であった。12年3月末時点で放流サイズに満たない1万2千尾が中間育成継続中である。

#### (2) 餌料試験

季節を問わず大量に確保できる餌料を検討した。配合飼料、加工海藻等は実用には向かなかった。陸上培養したわかりの一種が餌料として最も有効であった。

#### (3) 餌料保存試験

わかりの冷蔵、冷凍保存を試みたが、冷蔵では持ちが悪く冷凍では餌料価値が落ちた。

#### (4) 加温試験

冬期の大量斃死対策として、加温飼育を行った。加温しない場合に比べて成長はやや良かったが、生残率は向上しなかった。

### 3. 放流技術開発

#### (1) 標識放流

平均殻高約25mmの種苗28,886個を、石垣島白保沖及び竹富島南沖に標識放流した。

#### (2) 放流追跡調査

1999年10月15日に放流した種苗の内、2000個について追跡調査を行ったところ、放流された種苗の残存率は17日目において6.9%となった。また、発見された死殻の

状態から、捕食者の多くが殻を破壊していることが考えられた。

### (3) 漁獲物調査

1999年の八重山海域におけるヤコウガイの主な漁期は3～9月で、7～8月に多く漁獲されたと考えられた。沖縄県におけるヤコウガイの漁獲量は前年に比べ1トン以上減少したが、八重山海域における漁獲量は前年を上回った。

### (4) 漁獲物調査

1999年に漁獲物調査を行ったヤコウガイの殻高、殻幅、体重の平均はそれぞれ、168mm、170mm、1.3kgであった。これらの内、頂部に標識のある個体はみられなかった。

また、漁獲された漁場別に殻高組成を調べ、比較したところ、放流された漁場と放流されなかった漁場の間に大きな違いは認められなかった。

### (5) 標本船調査

八重山海域のヤコウガイ漁場別に、漁業者1名による1997～1999年の漁獲数の変動を比較したところ、放流された漁場と放流されなかった漁場の間に大きな違いは認められなかった。

### (6) 標識脱落試験

敷石した水槽内で、ヤコウガイの標識種苗を1ヶ月間飼育したところ、ほとんどの個体に部分的な標識の脱落がみられ、種苗のサイズが大きくなるほど脱落率も高くなる傾向がみられた。

### (7) 大型貝の放流

1998年に放流された大型貝62個体のうち、1999年に再捕されたのは17個体で、放流時の殻高は90～200mmの範囲であったが、再捕されたものはすべて130mm以上であった。